

令和5年度 旧今治管内生徒指導夏季研修会 実施報告書

1 日 時 令和5年8月1日(火) 10:20~12:00

2 場 所 今治市中央公民館(大ホール)

3 講演内容

- ・ 演 題 「つながりの中に」
- ・ 講 師 元今治市立別宮小学校長 村上 勝也 氏

(1) 夏季休業中の生徒指導について

ア 9月からのスタートのために

それぞれの立場から、自分の1学期を振り返り、2学期以降の指導に生かすことが必要。生徒指導の心得は、「つながり」を大切にすることである。一人一人が「つながりの中に・・・」に続く言葉を見付けていただきたい。

イ グループエンカウンター「アドじゃん」

特殊な形を使ってのじゃんけんを行い、講師と同じものが3回出たら座るという内容。朝の会や職員研修等で導入として活用し、雰囲気や和ませたり、他者理解を深めたりすることにつながった。各学校の職員会議等で、このようなグループエンカウンターを実施するのもよい。

ウ 温かい配慮を要する児童・生徒の共通理解について

2学期のスムーズなスタートに向けて、児童・生徒の様子を集約し、職員会議等で共有してからスタートしてほしい。その際、児童・生徒の交友関係や家庭環境の変化に対してアンテナを張り、配慮児童・生徒以外の服装や表情の変化などにも注意すること。心配な児童・生徒に対しては積極的にコンタクトを取り、「もう少し関わってあげれば・・・」「あのときこうしてあげれば・・・」等の後悔がないよう指導に当たるべき。特に、全校招集日における無断欠席児童・生徒の動向には十分注意しておく。また、家庭訪問の際には、家庭の様子をしっかりと把握し、「知っているが、知らないふりをする」ことも大切である。現在、小中学校において夏季休業中も個別学習や水泳、陸上等の指導をされているが、是非継続してほしい。そして、その中で知り得た情報を職員間で共有してほしい。

(2) 連携の在り方について

ア 外部機関との連携について

家庭や地域、福祉関係、警察など、様々な相談機関が存在する。生徒指導主事としては、関係機関や他校の先生方との連絡調整を図り、連携を密にすることが必要不可欠である。小中間の引き継ぎも、各中学校区で怠りなく行う。

イ 校内連携について

外部機関との関わりを強化する前段階として、学校内での連携が必須である。生徒指導主事を中心とした報告・連絡・相談体制を振り返り、継続と改善を目指してほしい。風通しの良い職場環境を実現するためには、教師間のコミュニケーションや休み時間ごとの情報共有が大切である。自クラス以外にも目を向け、他クラス・他学年の生徒を褒めることも必要である。一人一人が広い視野で児童・生徒の様子を見ることが、児童・生徒のやる気や教師との信頼関係、学校のより良い雰囲気づくりにつながると感じる。そのような雰囲気づくりを、ベテラン・若手問わずに自ら行ってほしい。

ウ 保護者との連携について

教師が心掛けることは3点である。1点目は「聞くこと」である。保護者の感情をしっかりと受け止め、誤解や行き違いを取り除く準備をすること。2点目は「説明すること」である。原因になったことについて、しっかりと説明することが必要である。経験を積むことが不可欠ではあるが、教師自身が指導力を向上させ、保護者や生徒との信頼関係が求められていることを忘れてはならない。3点目は「報告すること」である。対応への反省や管理職への報告をした上で、今後の指導の方向性を共通理解する作業をしていく。

エ 自身の経験より

平成7年度より6年間、生徒指導主事として勤務した。毎日疲れ果て、眠れない日々が続いた。初めて生徒指導主事を担当する際、先輩の先生から「生徒指導主事は、先生の面倒を見ないかん。」と言

われ、当時は困惑したが、月日を経つうちにその意味が分かってきた。日頃から全校的な視野で仕事をしなければならぬと感じた。職員研修等ではグループエンカウンターを有効活用することで、気軽に会話ができる職員室を目指した。その結果、職員や保護者と現在でも親交がある。平成14年の筑波大学での研修で知り合った人々ともつながっている。愛媛県以外の教育現場における現状についてもたくさん話をすることができている。

(3) 自校の生徒指導における課題について

ア それぞれの立場で

現在における、自校の生徒指導の課題について、それぞれの立場から考えてみる。2学期以降すべきことに順位を付け、または並行して取り組むことで、学校全体が良い雰囲気になるように努力してほしい。また、その際には、自クラス以外にも目を向けられる教師であってほしいと思う。臨機応変に対応できる学校組織を目指してもらいたい。

イ 問題行動が起こった際に

頭ごなしの指導ではなく、実態に応じた指導が必須である。指導にはエネルギーがいるが、逆に考えると、問題行動が起こった際は本人やその家庭に関わるための大きなチャンスでもある。逃すことなく、児童・生徒や家庭の状況を掴み、情報共有してもらいたい。本人の様子や家庭環境を含め、日々の情報共有を強化すること。そうすることで、本人の問題、家庭の問題、ネグレクト等いろいろな状況を想定した指導につながる。学年会や職員会議等の情報交換の場を設定してほしい。教師一人一人が本音を話すことのできる場が必要である。

ウ 配慮を要する児童・生徒に対して

教師に反抗したり、教室から出て歩き回ったり、暴言や暴力、自傷行為をした際にもゆとりを持って受け止める度量のある対応が必要である。児童・生徒や保護者のことをよく理解し、気分転換させながら対応していく。

エ 最後に

私は在職中、植物の世話をよくしていた。植物は世話をすればした分だけ結果になる。子どもたちに対しても真剣に関わればその分だけ結果が出る。ただし、いつ出るのかは分からない。生徒指導は子どもを信じることから始める。何度裏切られても、すぐに結果が出なくても良い雰囲気の職場にしていくことで少しずつ改善される。現在の保護者は、以前の学校での評判や仕事ぶりを含め、先生方の様子をよく知っている。その分先生に対する期待や関心が高く、求めているものも大きい。良いものを実らせるために、種をまき、しっかりと世話をしていってほしい。

(4) 「つながりの中に」に続く言葉について

つながりの中に児童生徒の未来がある。つながりの中に自分の今がある。今後においても、今しかつながれない人々を大切にしながら、教育活動に励んでほしい。

(5) 質疑応答

Q1 20代の若い教員が増え、情報を共有しづらいことが多い。その際、どのような工夫をして対応されたのか。

A1 個別に伝えることが一番である。経験してきたことを伝え、組織としての動きを定着させること。自ら行動してもらえそうな手立てを工夫してみる。

Q2 生徒指導主事をしていた頃、どうにもならない気持ちになったとき、どのようにすればよいのか。児童生徒に対する本当の優しさとは何か。

A2 その子どもに関わるのは、そのときだけである。目標を定めて逆算し、今を全力で関わっていく姿勢が不可欠だと思う。優しいという感覚はないが、「自分の協力者」であると思えたら、優しさが伝わるのではないか。

(6) 感想（講演終了後のアンケートより一部抜粋）

- ・ 自分は「つながりの中に、信じられる仲間がいる」と考えた。同僚だけでなく、子どもや保護者も仲間として信じていきたい。そして信じてもらえる自分でいられるよう行動していきたい。
- ・ 生徒指導主事として大切にすべきことが理解できた。学校の風通しが良くなるように自ら行動したい。
- ・ 「今しか関わるできない」という言葉を聞いて、子どもたちと関わることのできる時間（今）を大切にして教育活動を行っていきたい。